

各地区業況アンケート結果（2021年8月調査分）

（2021年8月25日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、8月24日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ75名の回答があり（回答率53.2%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = $(A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

1. 5割強の企業が前年同月比増

問1】貴社の7月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	31	7	15	9	12	74	76
比率	42%	10%	20%	12%	16%	DI+49	DI+53
売上金額/前年同月比	38	10	15	6	6	75	77
比率	51%	13%	20%	8%	8%	DI+91	DI+84

2. 黒字7割

問2】貴社の7月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	29	23	14	6	3	75	77
比率	39%	31%	18%	8%	4%	DI+92	DI+103

3. 低調な販売続く

問3】貴社の営業窓口から見て8月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		8	36	8	2	54	-7	-14
民間建設向		12	30	14	3	59	-14	-16
自動車向	1	5	24	8		38	-3	-14
その他需要家向	1	9	37	12	1	60	-5	-8
仲間取引		8	36	16	5	65	-28	-17
計	2	42	163	58	11	276	-12	-10
比率	1%	15%	59%	21%	4%			

4. 秋需に多少の期待感

問4】貴社における向う9月から11月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	6	31	28	2	4	71	76
比率	8%	44%	39%	3%	6%	DI+46	DI+28

5. 鋼板類、コラムは品不足続き、その他品種も不足気味傾向へ

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	品種別	A	B	C	D	E		8月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-25	-4	0	-7	-10	-7	3	-3	-15	0	-3	-14	-9	鉄筋用丸鋼		3	25	2		30	3
-38	-17	-15	-16	-10	-11	0	-4	-11	8	4	4	14	構造用丸鋼		8	19	1		28	25
-23	-14	-9	-13	-15	-6	-3	-3	-6	0	0	0	11	平角鋼		7	26			33	21
-19	-4	-3	0	-3	20	12	21	3	-3	6	23	33	H形鋼	1	14	18			33	48
-41	-33	-29	-21	-20	-13	0	12	19	14	24	83	125	コラム	13	9	3			25	140
-29	-14	-12	-9	-15	-9	-6	-8	-5	-3	6	-6	3	小形山形鋼		5	31		1	37	8
-26	-10	-12	-12	-14	-9	-6	-11	-11	-6	-3	-9	3	中形山形鋼		5	29		1	35	9
-27	-18	-12	-13	-17	-13	-3	-11	-11	-6	3	-16	6	溝形鋼		5	30		1	36	8
-27	-27	-17	-23	-16	-11	7	-7	-6	0	17	39	50	軽量形鋼C形	4	15	10	1		30	73
-25	-25	-16	-26	-22	-11	5	-5	-5	0	14	17	39	軽量形鋼広巾	3	6	10			19	63
-57	-58	-41	-3	10	35	108	127	132	148	158	162	166	冷延薄板	20	9	2			31	158
-64	-54	-35	0	31	58	105	106	105	100	123	133	133	熱延薄板	11	17	5			33	118
-53	-57	-34	13	23	34	114	145	139	134	161	163	162	表面処理鋼板	18	12	3			33	145
-80	-67	-47	18	34	75	127	144	143	150	161	168	169	酸洗鋼板	23	8	2			33	164
-46	-49	-22	15	18	49	89	93	84	95	104	116	113	中板	16	18	8	1		43	114
-46	-52	-41	-8	-8	15	33	43	34	36	56	76	102	厚板	12	20	7	2	1	42	95
-29	-42	-40	-11	-18	-9	0	10	22	24	39	67	70	極厚板	3	14	3		1	21	86
-26	-24	-21	-10	0	0	6	19	26	13	45	43	64	縞板	1	9	17			27	41
-36	-33	-26	-20	-15	-9	8	6	6	15	29	47	57	中径角	5	16	10	2		33	73
-22	-23	-19	-23	-11	-3	-3	-6	0	12	19	32	42	ガス管黒	4	12	16	1		33	58
-29	-19	-18	-18	-16	-6	-5	0	3	6	20	29	49	構造用鋼管	4	13	15	1		33	61
-37	-31	-22	-8	-3	9	31	35	34	37	49	57	70	計	138	225	289	11	5	668	72

6. 流通は品薄状態で玉の確保と価格転嫁が課題

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交せて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	(形鋼) 通年とは異なり、今年7月は活気に欠ける荷動きにて終始した。中小物件が少ない状況が継続しているため値上げもなかなか難しく苦労している。しかしながら、ホットコイル、厚板不足が需要家に浸透してきたので、丁寧に説明し値上げを実行する。
	B	道内の地方は夏場以降、丸棒の案件は少ない。出荷がない中で、メーカーの仕切値は上がり続けている。販売減、仕入高の二重苦の状況が続く。
	C	秋の需要に期待しているが、見積りが少ない。Mグレードの仕事が薄い。丸パイプ、角パイプの品不足で商売ができない。
東北	A	メーカー値上げが続き、現場予算が全く合わない状況。
	B	板を注文しても納期が定まらない。客先に返事のしようがない。材料の高騰は、これからの工事発注にかなりの影響が出てくるのでは。
	C	製造業、建設業とも昨年並とぱっとしない状況。タイト感の出ている鋼板類は従来よりも注文が増えているが、すべて答えられず断るケースもあり困っている。値上げ分の価格転嫁と在庫量の確保について粛々とやっていく。
新潟	A	価格転嫁は大幅値上げで待ったなし。自動車関連、建機、産機の動きがよく使用材の入手に苦慮している。鉄骨関係はコラムの入手困難と価格の上昇で延期も多く出ている様だ。
	B	全体的に物件は少ないが、値上げ(特にフォーミング製品関係)はまだ止まらない状況だが、引続き情報を共有していきたい。
	C	品種により、在庫の入手が遅れ、スポット対応しているものもある。厳しい単価要請はお断りするケースもある。
	D	コラムの入荷が非常に悪い。引合いに対して対応が思うようにいかない。冬場の引合いも出てきているが、メーカーへの裏付けを取りながら対応している。
	E	特殊鋼は今期2回目の値上げ交渉中、9月より実施を目指す。荷動きは夏枯れもなくほぼ順調。
	F	比較的タイト感が薄かった条鋼、厚板も入手が困難になってきた。値上げスピードが速いのはともかく、材料の手当てができないのは危機的状況。裏付けをとりながら商談を進めないと取り返しがつかないことになりそうである。
	G	製造業の好調に加え、建築案件も徐々に増加傾向。値上げ環境が続いている中、ひも付き価格や自動車価格に注目が集まるなど、話題は常に価格と数量確保となっている。
神奈川	A	材料価格上昇対策のため多めに在庫を持つようにしていたが、需要は回復しておらず、7円は大変厳しい状況。
	B	需要に大きな変化はない。追加工事は出ていない状況。今回、高炉、電炉の材料値上げで毎月、価格改正の実施に追われている。先行きは材料費の高騰で信用不安は出ていないと思われる。
東京	A	今まで低調だった建築需要がオリンピック後、活況になると思われる。高炉メーカー並びに材料メーカーの値上げがキロ+65円まで発表され、製品値上げがなかなか追い付かない状況。利益が出るまで価格転嫁を達成できるのだろうか。上げた方がいいが、売り先がなくなってしまうのではないかとの思いでいっぱいである。
	B	需要に見合わないメーカーの異常な値上げはバブルそのもの。このままだと特約店、ユーザー、メーカーの順番に倒れるだけ。
	C	需要は少しずつ上がっているが、市中材含め在庫の品薄感が出ている。高炉メーカーへの入票も一部枠をカットされている状況で、玉の確保と急激な値上げに対するタイムリーな価格転嫁が課題。

東京	D	年初に比べ需要は増加している。秋口にかけて小型建築物が増える予想もあり、コロナ禍前の需要に近づくだらう。未だ需要は本格的な回復に至らず供給面での減少と、その結果の市況値上り状況は秋需にどんな影響を及ぼすか注視が必要である。
	E	土木物件について全く派手さはないが、淡々と出てきている。ロールする程の納期がなく、且つそれなりにまとまった量がある場合の見積りが難しい。切板単価は上がってきているので、在庫仕入とのタイムラグで一時的に利益は出やすいが秋以降は見通せない。
	F	オリンピックも終盤に向かい心配されていた首都圏の道路事情は大きな混乱もなく通常通り稼働。製品のタイト化で価格転嫁ができています。
	G	市況は過去最高値となり高騰している。上がったものは必ず下がるとは思わないが、余ったものは必ず下がる。現在の生産、在庫、需要のアンバランスはコロナ禍という特異な状況から生じたものである。平時に戻る過程で流通加工業は相場師的衝動買いをせず、余りものを出さないようにできるだろうか。
	H	仕事量が微減する一方、単価が高くなっているためお客様との交渉が難しくなっている。また、主要事業の品種である厚板が不足気味にあることが予想されるため先行きが心配である。
	I	表面処理鋼板はメーカーの引受カットの影響でタイトな状態が年度内続きそうな感じである。秋口からは自動車、建築の需要も旺盛になりそうで、更にタイトになると思われる。価格もメーカー値上げ@65円を転嫁しなければならず道半ばである。不本意ではあるが、更なる選別受注を実施して今ある在庫を大切に販売する。
	J	鉄筋の店売りは低位横ばい。価格は段階的に上がってきている。9月も一段上げざるを得ない。
	K	メーカー間で値上げの政策が異なるため価格差が生じ苦労している。
	L	市中の店売り価格とひも付き価格の乖離が激しい。既に中間流通間で飲み込める値差ではない状況。海外情勢動向に注意しながら、慎重な商いをしていくしかない。
	M	7月、8月とオリンピックやお盆休暇があり、稼働日数が少なく売上数量、金額ともに減少している。また、オリンピック期間中の物流への影響懸念から7月以降から現在まで受注と荷動きが悪くなったように感じる。9月以降は止まっていた案件も動きが見られ6月程度の状況まで回復する見込み。
静岡	A	建築は主部材、ボルトの手当ての目途を付けるのに苦労しているが、設計事務所、ゼネコンに状況が浸透し出件は早くなっている。足元の見積りは状況の厳しさから年明けの予定が殆どである。
	B	Hグレードファブは大型物件の消化はもとより、従来の地場ゼネコン、工務店物件も取り込んでおり、材料の供給先、元請先とは諸々打合せし調整しているがともに繁忙である。材料に関しては時代の推移、趨勢を感じる。流通において「売り止め」という言葉はなくなった。先入・後出にせよ、後入・先出にせよ倉に入った玉は大切に販売することなのだが。顧客の材料価格、供給などの現状認識を崩すような状況を流通も苦しいが創ってはいけない。隣国などのマザーコイルの動向等、詳細なレポートをご依頼したい。東京五輪、パラリンピック、コロナ禍、盆休みと続く中、不良債権は気を抜けない。需給状況について品薄感はあるが通常の商いには支障があるとは感じられない。
石川		モノ造り業界はゆるやかに増加気配。建築は低調。土木は順調に近くなりつつある。新幹線は終わりに近づいているが、高架下フェンスは工員不足もあり、落札も不調気配。工作機械が復活気配ではあるが、メーカーによってばらつきがある。本格的に復活になってくると薄板不足が更に堅調になり、見積りが困難になるだろう。他にハイテンションボルトがまた不足になってきているが、理由が理解できない。メーカーが意図的に調整しているのではないが、誰も理由がわからない。

福井		地元の鉄骨組合により「鋼材情報に関する勉強会」の開始依頼があった。「鋼材の価格・納期の現状と見通し」と題打って、商品別に情報をお伝えし、またその時の資料を活用してもらい、地元設計事務所、建設会社にも状況の理解を促進することになった。
富山		地元の中小案件は依然として少ない。設計時に先行手配するため材料不足も減りつつある（短納期の修繕）。増築案件は材料不足で難航することもある。景気回復の後半予想も新型コロナの感染者が数倍になると委縮傾向になると予感している。
大阪	A	「材料屋は情報が早いので安い物をしっかりため込んで沢山儲かるでしょう」とよく言われてしまう。実際にはメーカーが出荷を絞っているのも、どれも不足気味で心配である。高炉メーカーは2022年度3月期の収益は大幅に回復しそうなので、大手ユーザー向けも公平に値上げを遂行してもらい、市中相場も正當に上がっていくことを望む。今後の見通しの良いのは建築より土木だろうか。
	B	主力取扱品種の需要動向はやや逼迫気味。特に地域エリアが混戦となっており、厳しいところ。
兵庫		需要家、同業者問わず、同じ板厚の引合いが多く在庫が偏ってしまっている。
岡山		暇である。薄板三品は高いが入手困難ではなくなってきた。
北九州		高炉品種に関しては、品薄、価格高騰が続く。電炉品種の条鋼類は8月契約で積み残しを転嫁してくるだろうと思われ、倉の平均簿価が一気に上がってくる。市況を上げないと利益は圧迫されるばかり。
福岡		厚板の枠の問題もあり、リードタイムの長期化で工程、納期に遅延が出る可能性が高まっている。今後予定通りに工程を進められるか懸念される。